

「治山林道事業留意事項の一部改正について」新旧対照表

新	旧
<p data-bbox="338 371 837 424">治山林道事業留意事項</p> <p data-bbox="497 1023 719 1066"><u>令和2年8月</u></p> <p data-bbox="297 1264 925 1307">高知県林業振興・環境部 治山林道課</p>	<p data-bbox="1375 371 1874 424">治山林道事業留意事項</p> <p data-bbox="1525 1023 1765 1066"><u>令和元年7月</u></p> <p data-bbox="1335 1264 1962 1307">高知県林業振興・環境部 治山林道課</p>

共通事項

1. 設計歩掛適用基準

(1) 設計における数値基準について

1. 治山林道事業の設計積算数値基準
治山林道必携 (積算・施工編) - 森林整備保全事業設計積算要領による。
2. 施設災害復旧事業の設計積算数値基準
治山必携 (災害編) - 施設災害 (参考基準等) による。

【通知文】 20 高治林 第 585 号 平成 20 年 10 月 14 日通知

20 高治林 第 608 号 平成 20 年 10 月 24 日通知

(2) ~ (5) (略)

(6) 市場単価

1. 定義
(略)
2. 適用工種
適用工種は治山林道必携積算・施工編第 1 編共通工第 9 市場単価による。
(削除)

共通事項

1. 設計歩掛適用基準

(1) 設計における数値基準について

1. 治山林道事業の設計積算数値基準
治山林道必携 (設計積算編) - 森林整備保全事業設計積算要領による。
2. 施設災害復旧事業の設計積算数値基準
治山必携 (災害編) - 施設災害 (参考基準等) による。

【通知文】 20 高治林 第 585 号 平成 20 年 10 月 14 日通知

20 高治林 第 608 号 平成 20 年 10 月 24 日通知

(2) ~ (5) (略)

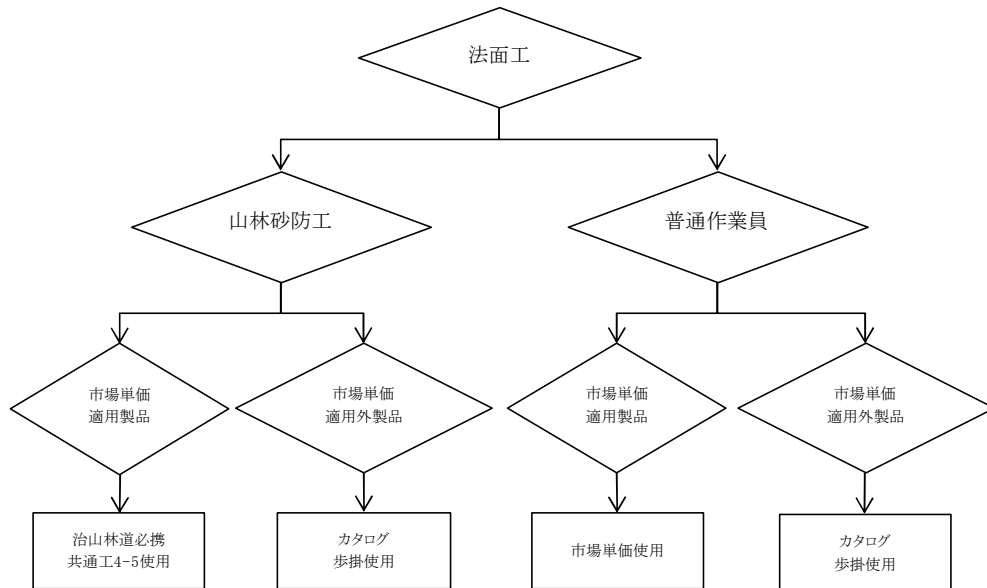
(6) 市場単価

1. 定義
(略)
2. 適用工種
適用工種は治山林道必携積算・施工編第 1 編共通工第 9 市場単価による。
また、種子吹付工及び植生基材吹付工における種子配合については、種子配合一覧表によること。

3. 適用にあたっての留意事項
(略)

4. 法面工

- ・種子吹付 工及び植生基材吹付工における種子配合については、種子配合一覧表によること。
- ・山林砂防工を適用する箇所は、市場単価が適用外であることから、市場単価で想定している製品については、治山林道必携の共通工 4-5 植生ネット工を適用する。
- ・市場単価で想定していない製品については、カタログ等の歩掛を適用する。



(7) ~ (14) (略)

3. 適用にあたっての留意事項
(略)

(新設)

(7) ~ (14) (略)

(削除)

(15) 植生ネット工について

- 1) 植生盤（岩用）についての設置歩掛は、下表のとおり。
- 2) 適用範囲
本歩掛は、種子吹付及び客土吹付に伴う植生ネット張及び単独ネット張工法でネットの種類が1重ネットのほか2重ネット、肥料袋及び人工張芝付ネットについても適用する。

植生ネット工(岩盤用) (100m²当たり)

名 称	規 格	単 位	植生ネット	
			肥料袋無	肥料袋有
世話役		人	0.50	0.63
法面工		//	1.25	1.63
普通作業員		//	0.75	0.88
ネット		m ²	120	120
アンカーピン	φ 16×400mm	本		
サブアンカーピン	φ 9×200mm	//		
釘	φ 5×150mm	//		
諸雑費率		%	6	5

- 備考1. アンカーピンの本数は、カタログにより必要本数を積算する。
2. アンカーピンに代えて目串を使用する場合は、普通作業員を目串採取歩掛とし、目串1,000本当たり0.5人を計上する。
 3. 諸雑費は、仮設ロープ等の損耗費であり、労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。ただし、最大法長3m未満の場合は、上表の諸雑費率による計上は行わない。
 4. 市場単価の適用とならない（土砂用）については、4-6植生ネット工を適用する。

(15) 土石流の発生・到達するおそれのある現場での工事における安全対策について

(略)

(16) 治山林道事業で発生する根株、伐採木及び末木枝条の取扱いについて

(略)

(16) 土石流の発生・到達するおそれのある現場での工事における安全対策について

(略)

(17) 治山林道事業で発生する根株、伐採木及び末木枝条の取扱いについて

(略)

(17) 現場吹付け法砕工の砕内排水の設計について

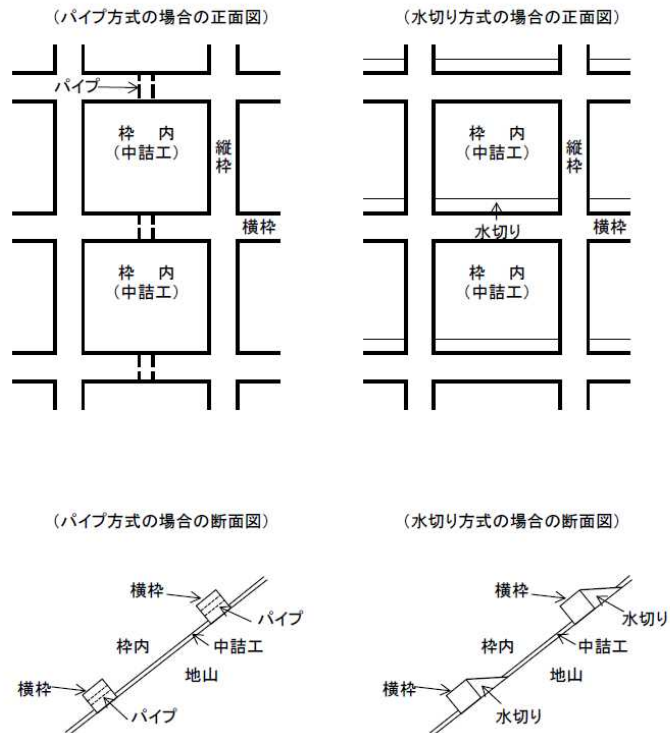
(新設)

現場吹付け法砕工の砕内排水の設計に関して、中詰工がモルタル等の場合はパイプ方式を基本とし、初期投資及び長期的な経済性や供用期間中の管理の確実性等を考慮したうえで、適切な排水方法を選択すること。

水切りコンクリートを同時施工する場合は、水切りコンクリートを含めた安定計算を行うこと。

(参考図)

現場吹付け法砕工の概念図



2. (略)

3. 参考資料

1. 設計変更事前協議書について

(略)

2. 高知県内観測所の平年値（年平均気温、年降水量）及び極地

(略)

2 (略)

3. 参考資料

1. 設計変更事前協議書について


(略)

2. 高知県内観測所の平年値（年平均気温、年降水量）及び極地

(略)


高知県内観測所の降水量(mm) 平年値及び極値

	平年値 年降水量 (mm)	極 値											統計開始年
		日降水量			日最大1時間降水量			年降水量の多い値		年降水量の少ない値			
		(mm)	起年月日	統計開始年	(mm)	起年月日	統計開始年	(mm)	起年	(mm)	起年		
本川	3077.2	713	2005.9.6	1979	85.5	2013.9.4	1979	5714	2004	2096	1996	1979	
本山	2616.2	510.5	2018.7.6	1976	102	1983.9.28	1976	4747	2004	1754	1994	1976	
池川	2793.9	644	2005.9.6	1977	96	2013.9.4	1977	4789	2004	1915	1996	1977	
繁藤	3122.2	735	1998.9.24	1976	110	2004.8.1	1976	5081	1998	2002	1994	1976	
大橋	2774.2	378	2018.7.5	1977	87.5	2017.7.1	1977	4584	2018	1787	1994	1977	
魚梁瀬	4107.9	851.5	2011.7.19	1978	114	1995.7.21	1978	7194.5	2018	2598	1996	1978	
佐川	2815.3	491.5	2014.8.3	1976	86	1976.9.8	1976	4699	2004	1890	1996	1976	
成山		458	1976.9.12	1976	78	1998.6.25	1976	4696	2004	2440	1981	1976	
高知	2547.5	628.5	1998.9.24	1886	129.5	1998.9.24	1937	4383	1998	1543.6	1930	1886	
後免	2266.6	584	1998.9.24	1978	119	1998.9.24	1978	3765	1998	1598	1994	1978	
芸西		307	1989.8.30	1976	114	1989.8.30	1976	2672	1980	470	1978	1976	
鳥形山		545.5	2014.8.2	1976	80.5	2017.9.17	1976	5544.5	2018	1750	1981	1976	
船戸	3328.7	595	2005.9.6	1976	95	2009.8.10	1976	6624	1999	1855	1996	1976	
安芸	1965.1	292.5	2008.6.29	1976	83	2008.6.29	1976	2906	2012	1349	1996	1976	
田野	1867.8	367	2011.7.19	1976	92	2018.9.4	1976	2937	2012	1256	1984	1976	
梶原	2550.0	482	2005.9.6	1976	83	1989.9.19	1976	4264	1999	1713	1978	1976	
須崎	2604.3	363	2015.9.24	1976	126	1998.9.24	1976	3775	2014	1675	1996	1976	
佐喜浜	3403.9	479	2003.11.28	1976	133	2005.10.7	1976	5068	2012	2386	2005	1976	
窪川	3089.2	462	2007.7.14	1976	91	2004.8.1	1976	4697.5	2014	2059	2005	1976	
室戸岬	2326.1	446.3	1949.7.5	1920	149	2006.11.26	1925	3537	2016	1584.5	2005	1920	
江川崎	2258.5	437	2005.9.6	1977	80	2004.8.1	1977	3422	1999	1378	1978	1977	
堂ヶ森		232	1998.7.25	1976	73	2004.9.13	1976	3697	2004	624	1978	1976	
大正	2704.2	456	1992.8.18	1976	88	2004.9.16	1976	4085	2014	1723	1996	1976	
佐賀	2705.5	429	1998.6.24	1977	89.5	2019.7.18	1977	3959	1998	1803	1995	1977	
宿毛	1971.6	379.5	2014.8.9	1943	108	2018.7.8	1943	2944.5	2018	1317.9	1947	1943	
中村	2669.2	395	2014.6.4	1976	117	2004.8.2	1976	3950	2018	1779	1995	1976	
清水	2478.5	421	1980.8.4	1940	150	1944.10.17	1940	3674.0	1990	1498	1995	1940	

 資料なし・資料不足値

高知県内観測所の降水量(mm) 平年値及び極値

	平年値 年降水量 (mm)	極 値											統計開始年
		日降水量			日最大1時間降水量			年降水量の多い値		年降水量の少ない値			
		(mm)	起年月日	統計開始年	(mm)	起年月日	統計開始年	(mm)	起年	(mm)	起年		
本川	3077.2	713	2005.9.6	1979	85.5	2013.9.4	1979	5714	2004	2096	1996	1979	
本山	2616.2	492	2014.8.3	1976	102	1983.9.28	1976	4747	2004	1754	1994	1976	
池川	2793.9	644	2005.9.6	1977	96	2013.9.4	1977	4789	2004	1915	1996	1977	
繁藤	3122.2	735	1998.9.24	1976	110	2004.8.1	1976	5081	1998	2002	1994	1976	
大橋	2774.2	374	2004.8.1	1977	86.5	2015.12.11	1977	4046	2004	1787	1994	1977	
魚梁瀬	4107.9	851.5	2011.7.19	1978	114	1995.7.21	1978	6113	2004	2598	1996	1978	
佐川	2815.3	491.5	2014.8.3	1976	86	1976.9.8	1976	4699	2004	1890	1996	1976	
成山		263	1982.11.29	1976	78	1998.6.25	1976	4696	2004	2440	1981	1976	
高知	2547.5	628.5	1998.9.24	1886	129.5	1998.9.24	1937	4383	1998	1543.6	1930	1886	
後免	2266.6	584	1998.9.24	1978	119	1998.9.24	1978	3765	1998	1598	1994	1978	
芸西		307	1989.8.30	1976	114	1989.8.30	1976	2672	1980	470	1978	1976	
鳥形山		545.5	2014.8.2	1976	82	2014.8.2	1976	5285	2014	1750	1981	1976	
船戸	3328.7	595	2005.9.6	1976	95	2009.8.10	1976	6624	1999	1855	1996	1976	
安芸	1965.1	292.5	2008.6.29	1976	83	2008.6.29	1976	2906	2012	1349	1996	1976	
田野	1867.8	367	2011.7.19	1976	80.5	2012.7.12	1976	2937	2012	1256	1984	1976	
梶原	2550.0	482	2005.9.6	1976	83	1989.9.19	1976	4264	1999	1713	1978	1976	
須崎	2604.3	363	2015.9.24	1976	126	1998.9.24	1976	3775	2014	1675	1996	1976	
佐喜浜	3403.9	479	2003.11.28	1976	122	2013.9.3	1976	5068	2012	2386	2005	1976	
窪川	3089.2	462	2007.7.14	1976	91	2004.8.1	1976	4697.5	2014	2059	2005	1976	
室戸岬	2326.1	446.3	1949.7.5	1920	149	2006.11.26	1925	3507.6	1949	1584.5	2005	1920	
江川崎	2258.5	437	2005.9.6	1977	80	2004.8.1	1977	3422	1999	1378	1978	1977	
堂ヶ森		232	1998.7.25	1976	73	2004.9.13	1976	3697	2004	624	1978	1976	
大正	2704.2	456	1992.8.18	1976	69	1990.10.8	1976	4085	2014	1723	1996	1976	
佐賀	2705.5	429	1998.6.24	1977	75	2008.10.23	1977	3959	1998	1803	1995	1977	
宿毛	1971.6	379.5	2014.8.9	1943	86.5	2001.9.6	1943	2892.1	1950	1317.9	1947	1943	
中村	2669.2	395	2014.6.4	1976	117	2004.8.2	1976	3732	2004	1779	1995	1976	
清水	2478.5	421	1980.8.4	1940	150	1944.10.17	1940	3674.0	1990	1498	1995	1940	

 資料なし・資料不足値

高知県内観測所の気温(°C)平年値及び極値

	平年値 年平均気温 (°C)	極 値					
		日最高気温の高い値			日最低気温の低い値		
		(°C)	起年月日	統計開始年	(°C)	起年月日	統計開始年
本川	12.1	36.5	1994. 7. 11	1979	-10.8	1985. 1. 15	1979
本山	13.9	38.1	2007. 7. 28	1977	-8.9	2011. 1. 16	1977
大橋	14.9	37.7	2013. 8. 11	1977	-7.2	1986. 1. 6	1977
高知	17.0	38.4	1965. 8. 22	1886	-7.9	1977. 2. 17	1886
後免	16.3	36.3	2007. 9. 6	1978	-7.9	1984. 2. 8	1978
安芸	17.2	<u>36.5</u>	<u>2016. 8. 21</u>	1977	-6.7	1981. 2. 26	1977
梶原	13.3	38.7	2013. 8. 12	1977	-12.0	1981. 1. 1	1977
須崎	16.7	39.3	2006. 8. 8	1977	-5.7	1981. 2. 26	1977
窪川	14.8	38.8	2013. 8. 11	1977	-8.9	1999. 2. 4	1977
室戸岬	16.7	<u>35.0</u>	<u>1942. 7. 30</u>	1951	-6.6	1981. 2. 26	1951
江川崎	15.4	41.0	2013. 8. 12	1977	<u>-7.0</u>	<u>2018. 2. 8</u>	1977
佐賀	16.2	38.6	2013. 7. 25	1977	-7.3	1981. 2. 27	1977
宿毛	16.9	38.0	1966. 8. 7	1943	-5.3	1981. 2. 27	1943
中村	16.3	39.7	2005. 8. 10	1976	-10.4	1977. 2. 18	1976
清水	18.2	35.5	1942. 7. 30	1940	-5.0	1981. 2. 26	1940

高知県内観測所の気温(°C)平年値及び極値

	平年値 年平均気温 (°C)	極 値					
		日最高気温の高い値			日最低気温の低い値		
		(°C)	起年月日	統計開始年	(°C)	起年月日	統計開始年
本川	12.1	36.5	1994. 7. 11	1979	-10.8	1985. 1. 15	1979
本山	13.9	38.1	2007. 7. 28	1977	-8.9	2011. 1. 16	1977
大橋	14.9	37.7	2013. 8. 11	1977	-7.2	1986. 1. 6	1977
高知	17.0	38.4	1965. 8. 22	1886	-7.9	1977. 2. 17	1886
後免	16.3	36.3	2007. 9. 6	1978	-7.9	1984. 2. 8	1978
安芸	17.2	<u>36.1</u>	<u>1983. 8. 15</u>	1977	-6.7	1981. 2. 26	1977
梶原	13.3	38.7	2013. 8. 12	1977	-12.0	1981. 1. 1	1977
須崎	16.7	39.3	2006. 8. 8	1977	-5.7	1981. 2. 26	1977
窪川	14.8	38.8	2013. 8. 11	1977	-8.9	1999. 2. 4	1977
室戸岬	16.7	<u>34.5</u>	<u>1966. 8. 9</u>	1951	-6.6	1981. 2. 26	1951
江川崎	15.4	41.0	2013. 8. 12	1977	<u>-6.9</u>	<u>1980. 12. 30</u>	1977
佐賀	16.2	38.6	2013. 7. 25	1977	-7.3	1981. 2. 27	1977
宿毛	16.9	38.0	1966. 8. 7	1943	-5.3	1981. 2. 27	1943
中村	16.3	39.7	2005. 8. 10	1976	-10.4	1977. 2. 18	1976
清水	18.2	35.5	1942. 7. 30	1940	-5.0	1981. 2. 26	1940

治山事業

1. 治山設計歩掛適用基準

1 職種区分による機械土工の適用

1～5 (略)

6 運搬工

1. 索道元からの小運搬加算（治山事業関係）平成11年度から適用する。

1) (略)

2) 資材運搬 両側20m以内の小運搬は除く。

【例】(略)

- ・ 小運搬の加算適用は十分、現場条件を検討の上行うこと。
- ・ 治山林道必携施工パッケージ型積算方式3章コンクリート工表4.1の(注)1. 人力打設で現場内小運搬「有」を適用する範囲は、ケーブルクレーン直下から、左右10m～25mの区間とする。
- ・ 作業上ある程度の範囲で小運搬がなくても実施可能と判断できる場合は適用をしなくてもよいと考える。
- ・ 横索によるケーブルクレーン運搬も比較検討。
- ・ 仮設道による運搬も検討。
- ・ コンクリートの運搬経費は材料の割増計上はしない。その他の資材は材料の割増計上する。

2・3 (略)

7～11 (略)

治山事業

1. 治山設計歩掛適用基準

1 職種区分による機械土工の適用

1～5 (略)

6 運搬工

1. 索道元からの小運搬加算（治山事業関係）平成11年度から適用する。

1) 略

2) 資材運搬 両側20m以内の小運搬は除く。

【例】略

- ・ 小運搬の加算適用は十分、現場条件を検討の上行うこと。
- ・ 治山林道必携共通工3-1-5人力打設の備考1小運搬の加算適用は、ケーブルクレーン直下から、左右10m～25mの区間とする。
- ・ 作業上ある程度の範囲で小運搬がなくても実施可能と判断できる場合は適用をしなくてもよいと考える。
- ・ 横索によるケーブルクレーン運搬も比較検討。
- ・ 仮設道による運搬も検討。
- ・ コンクリートの運搬経費は材料の割増計上はしない。その他の資材は材料の割増計上する。

2・3 (略)

7～11 (略)

2. 土工

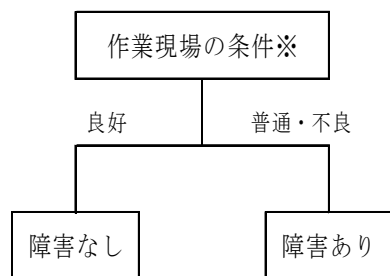
1 バックホウ規格の選定

1) 当初設計における選定

図 (略)

・本フローは施工土量 10,000 m³ 未満に適用することとし、10,000 m³ 以上については現場条件を勘案のうえ、本フローあるいは見積等により対応することとする。

・バックホウ日当たり施工量における現場条件の内容については下記を標準として選定するものとする。なお、現場条件により下記により難しい場合は別途考慮することとする。(制限の内容については治山林道必携通りとする。)



※ 良好・・・作業現場が広く（土工板幅の3倍以上）トラフィカビリティーや地盤の凹凸を考慮してスリップ等がなく、また下がり勾配等で作業速度が十分期待できる条件がそろっている場合

普通・・・作業現場が広いが作業速度が期待できない場合、作業現場が狭い（土工板幅の3倍未満）が作業速度が十分期待できる場合等、上記の諸条件がほぼ中位と考えられる場合

不良・・・作業現場が狭く、地盤状況を考慮してスリップやぬかるみが多く、また上り勾配等で作業速度を阻害する条件がそろっている場合

(比較検討にあたっての留意事項) (略)

2) (略)

2 ~1 2 (略)

3. 治山ダム工 (略)

2. 土工

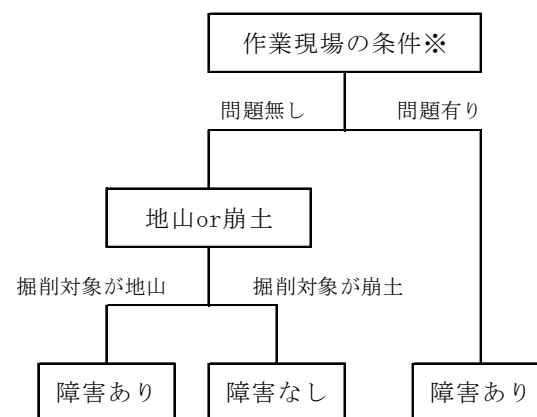
1 バックホウ規格の選定

1) 当初設計における選定

図 (略)

・本フローは施工土量 10,000 m³ 未満に適用することとし、10,000 m³ 以上については現場条件を勘案のうえ、本フローあるいは見積等により対応することとする。

・バックホウ日当たり施工量における現場条件の内容については下記を標準として選定するものとする。なお、現場条件により下記により難しい場合は別途考慮することとする。



※作業現場が広く、障害物等による作業妨害無し・・・問題無し
作業現場が狭く、障害物等による作業妨害有り・・・問題有り

(比較検討にあたっての留意事項) (略)

2) (略)

2 ~1 2 (略)

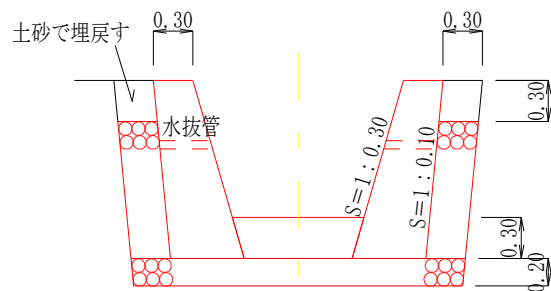
3. 治山ダム工 (略)

4. 流路工・水路工

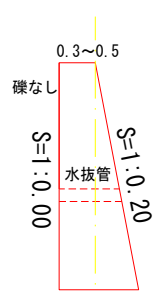
1 流路工・水路工の定義 (略)

2 コンクリート梯形流路、水路工断面

(ア) 標準断面図

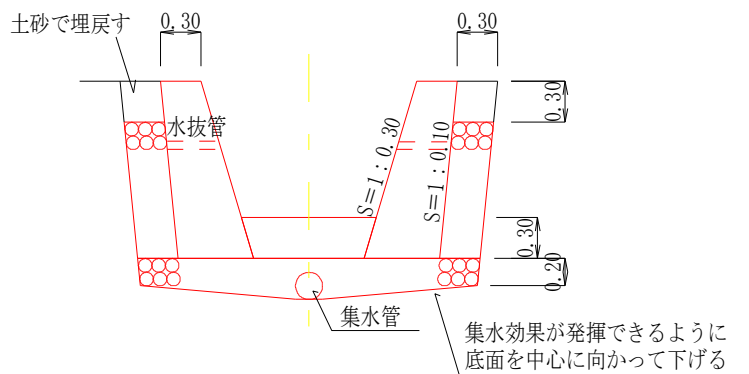


帯工



備考 地すべり地等側圧を受ける場合の側壁天端も同様に0.30mとし、帯工天端は0.50mとする。

(イ) 標準断面図 (集水管併用)



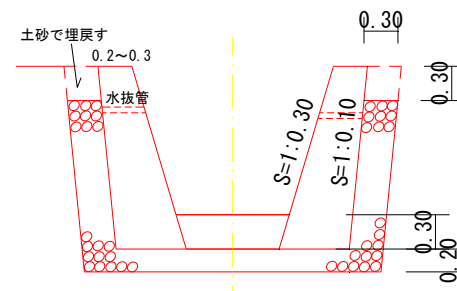
備考 地すべり地等側圧を受ける場合の側壁天端も同様に0.30mとし、帯工天端は0.50mとする。

4. 流路工・水路工

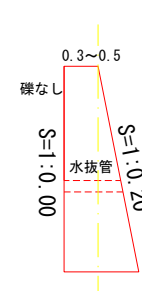
1 流路工・水路工の定義 (略)

2 コンクリート梯形流路、水路工断面

(ア) 標準断面図

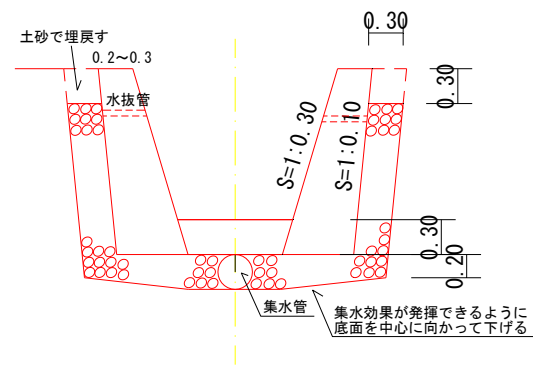


(ウ) 帯工



備考 地すべり地等側圧を受ける場合の側壁天端は0.30mとし、帯工天端は0.50mとする。

(イ) 標準断面図 (集水管併用)

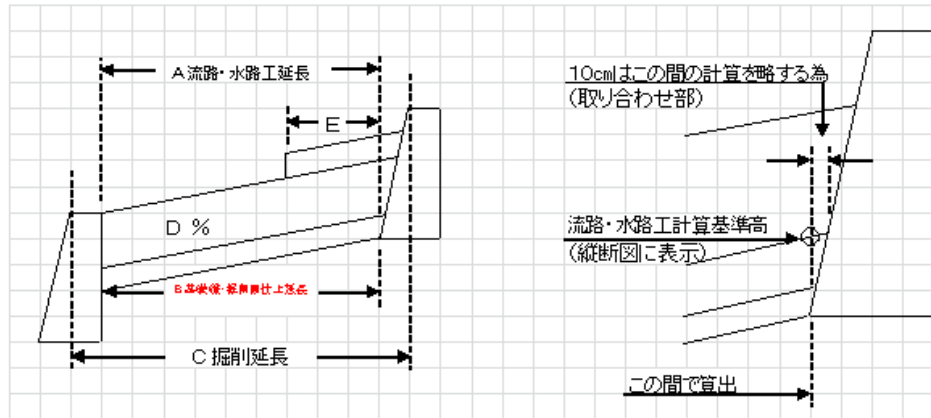


備考 地すべり地等側圧を受ける場合の側壁天端は0.30mとし、帯工天端は0.50mとする。

(ウ) ~ (オ) (略)

3・4 (略)

5 流路・水路工計算延長の取り扱いについて



↑
↑

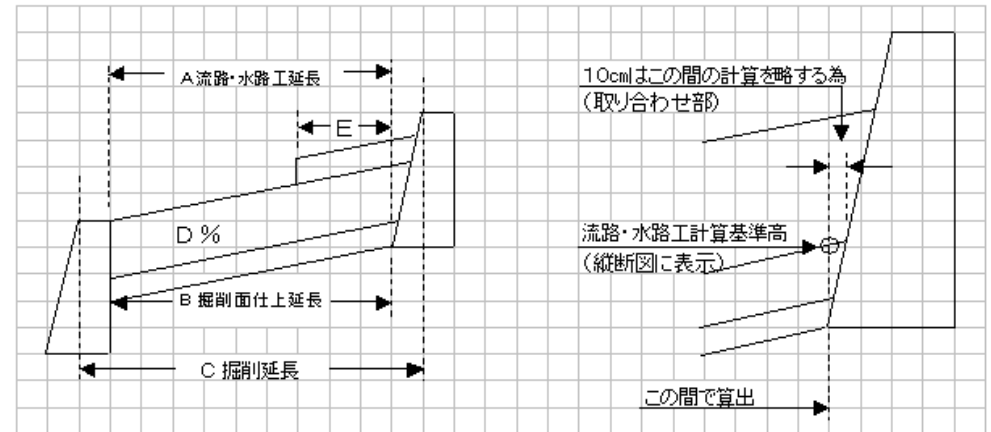
コンクリート三面張流路・水路工			
種別	記号	端数処理	備考
コンクリート	A	少数点2位切捨、10cm単位	取り合わせ部を除く流路・水路流水延長(水平) + 10cm
型枠	A	〃	
裏込礫	A	〃	
基礎礫	B	〃	基礎礫下部延長(水平距離)
掘削面仕上	B	〃	基礎礫下部延長(斜長)
掘削	C	〃	測点間水平距離(但し帯工間)
勾配	D	%整数止(小数点以下1位四捨五入)	

6 (略)

(ウ) ~ (オ) (略)

3・4 (略)

5 流路・水路工計算延長の取り扱いについて



コンクリート三面張流路・水路工			
種別	記号	端数処理	備考
コンクリート	A	少数点2位切捨、10cm単位	取り合わせ部を除く流路・水路流水延長(水平) + 10cm
型枠	A	〃	
裏込礫	A	〃	
基礎礫	A	〃	基礎礫下部延長(斜長)
掘削面仕上	B	〃	基礎礫下部延長(斜長)
掘削	C	〃	測点間水平距離(但し帯工間)
勾配	D	%整数止(小数点以下1位四捨五入)	

6 (略)

5. 土留工・護岸工

1～3 (略)

4 水抜きについて

① (略)

②当初設計においては水抜き位置は表示しないため、受注者と十分な打合せを行い水抜き位置を決定し、設計変更すること。

③・④ (略)

5～7 (略)

8 石積(張)工

①歩掛の適用

人力施工の場合・・・参考歩掛 5-18 石積(張)工を適用する。

② (略)

9・10 (略)

6. 落石防止工 (略)

7. 地すべり防止工

地すべり防止 (調査) (略)

地すべり防止 (対策工)

1～4 (略)

5. 土留工・護岸工

1～3 (略)

4 水抜きについて

① (略)

②当初設計においては水抜き位置は表示しないため、請負業者と十分な打合せを行い水抜き位置を決定し、設計変更すること。

③・④ (略)

5～7 (略)

8 石積(張)工

①歩掛の適用

人力施工の場合・・・参考歩掛 5-21 石積(張)工を適用する。

② (略)

9・10 (略)

6. 落石防止工 (略)

7. 地すべり防止工

地すべり防止 (調査) (略)

地すべり防止 (対策工)

1～4 (略)

5 アンカー工及び集・排水ボーリングの削孔機械の適用について

(1)～(3) (略)

(4) 集排水ボーリング工の施工及びせん孔確認方法について

①・②略

③監督職員の確認方法と頻度、土質判定方法、設計変更への反映方法等について
施工管理上、削孔時のスライムについては5本中1本（5本に満たない場合も1本）以上を採取させる。

スライムの採取頻度については1m毎に採取する方法などが考えられるが、施工延長により試料検体数が膨大となる場合も考えられることから、原則として土質の変化点毎に採取させることとする。

また監督職員は、原則としてスライム採取を行う孔のせん孔作業時に立会を行うこととする。

採取したスライムは試料検体として受注者において保管し、完了時に発注者に提出する。

施工管理上、せん孔責任者にスライム試料検体を基に土質柱状図を作成させるとともに、必要に応じて協議により設計（土質および施工延長）変更の対象とする。現地では、柱状図等で湧水位置の想定に基づく湧水量を確認することとする。水状況を撮影し確認すること。

④検査職員の確認方法等について

設計図書に基づき、対策工事の目的が達成できているかを、受注者が作成・採取した土質柱状図とスライム採取試料により確認する。

⑤ (略)

(5) (略)

6～11 (略)

5 アンカー工及び集・排水ボーリングの削孔機械の適用について

(1)～(3) (略)

(4) 集排水ボーリング工の施工及びせん孔確認方法について

①・②略

③監督職員の確認方法と頻度、土質判定方法、設計変更への反映方法等について
施工管理上、削孔時のスライムについては5本中1本（5本に満たない場合も1本）以上を採取させる。

スライムの採取頻度については1m毎に採取する方法などが考えられるが、施工延長により試料検体数が膨大となる場合も考えられることから、原則として土質の変化点毎に採取させることとする。

また監督職員は、原則としてスライム採取を行う孔のせん孔作業時に立会を行うこととする。

採取したスライムは試料検体として請負者において保管し、完了時に発注者に提出する。

施工管理上、せん孔責任者にスライム試料検体を基に土質柱状図を作成させるとともに、必要に応じて協議により設計（土質および施工延長）変更の対象とする。現地では、柱状図等で湧水位置の想定に基づく湧水量を確認することとする。水状況を撮影し確認すること。

④検査職員の確認方法等について

設計図書に基づき、対策工事の目的が達成できているかを、請負者が作成・採取した土質柱状図とスライム採取試料により確認する。

⑤ (略)

(5) (略)

6～11 (略)

8. 森林整備

様式1. 様式2. 様式4. 様式5. 様式6

令和

9. ケーブルクレーン（索道）の設計基準

1～4（略）

5 その他

(1)

ア～カ（略）

キ ケーブルクレーン試運転に要する経費は、特殊作業員1人及び燃料費（軽油）を計上する。

ク ウインチベース材料（丸太）及びアンカー材料（丸太）の材積はそれぞれ1.9m³及び0.25m³を標準とする。

6 ケーブルクレーン早見表（略）

10. その他（略）

8. 森林整備

様式1. 様式2. 様式4. 様式5. 様式6

平成

9. ケーブルクレーン（索道）の設計基準

1～4（略）

5 その他

(1)

ア～カ（略）

キ（新設）

ク（新設）

6 ケーブルクレーン早見表（略）

10. その他（略）

林道事業

1 (略)

2 設計積算の留意事項

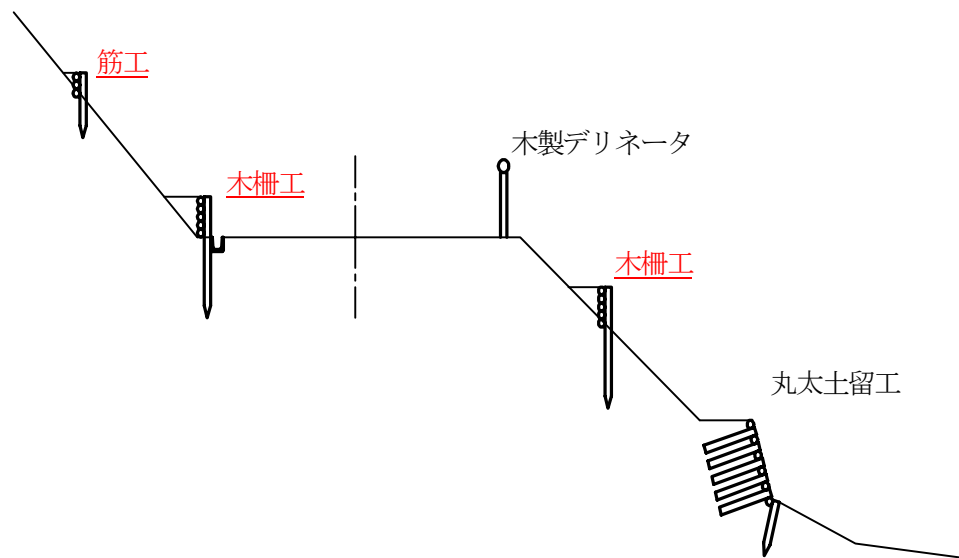
(1)、(2) (略)

(3) 木材利用の推進

① (略)

② 柵工については、木柵工 (角材) での設計を標準とする。
ただし、現地発生材を利用する場合等は、この限りではない。

《木材使用事例》



林道事業

1 (略)

2 設計積算の留意事項

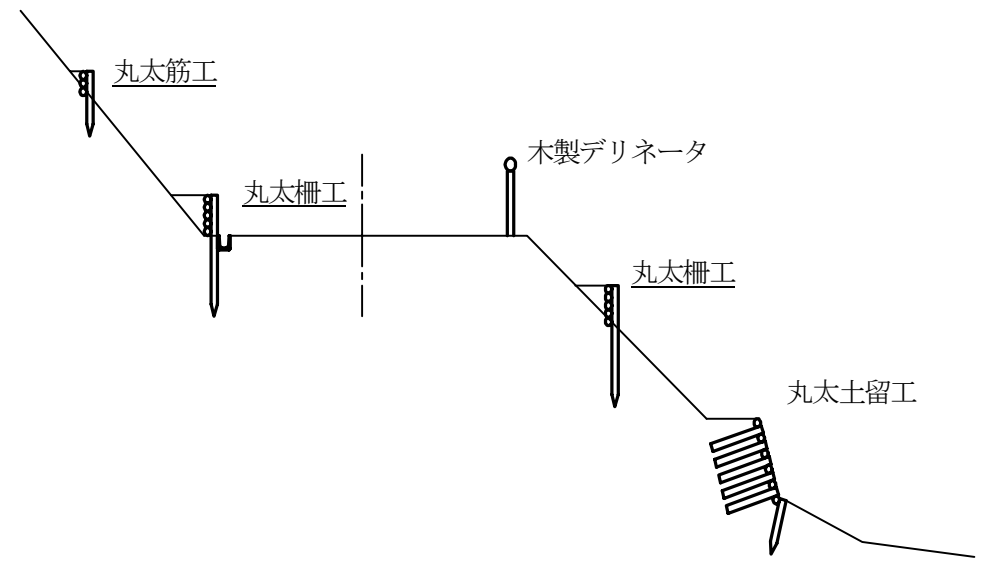
(1)、(2) (略)

(3) 木材利用の推進

① (略)

(新設)

《木材使用事例》



③仮設用編柵については、平成12年7月16日付けで通知しているところですが、木材の利用拡大や根株等の自然還元利用の観点から、現地へ残すことを前提にするものについては丸太柵工を使用し、撤去しなければならないものはポリネットシートを使用するなど現場状況を考慮にうえ、設置・撤去歩掛により積算するものとする。

②仮設用編柵については、平成12年7月16日付けで通知しているところですが、木材の利用拡大や根株等の自然還元利用の観点から、現地へ残すことを前提にするものについては丸太柵工を使用し、撤去しなければならないものはポリネットシートを使用するなど現場状況を考慮にうえ、設置・撤去歩掛により積算するものとする。

施工パッケージ型積算方式

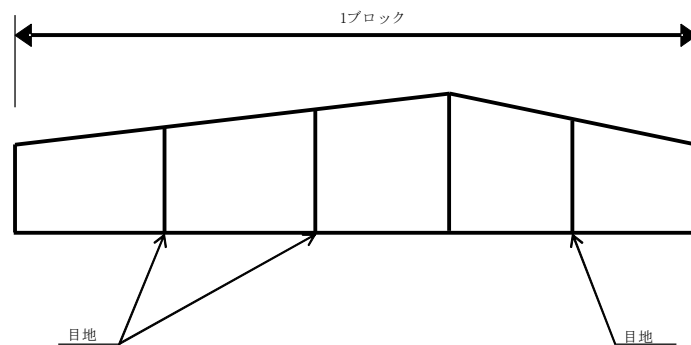
1・2 (略)

3. 共通項

(1)、(2) (略)

(3) 場所打擁壁工

1. (略)
2. 擁壁の平均高さを算出する際、1ブロックの判定は下図を標準とする。



3. (略)

(4)、(5) (略)

4. コンクリート工 (略)

施工パッケージ型積算方式

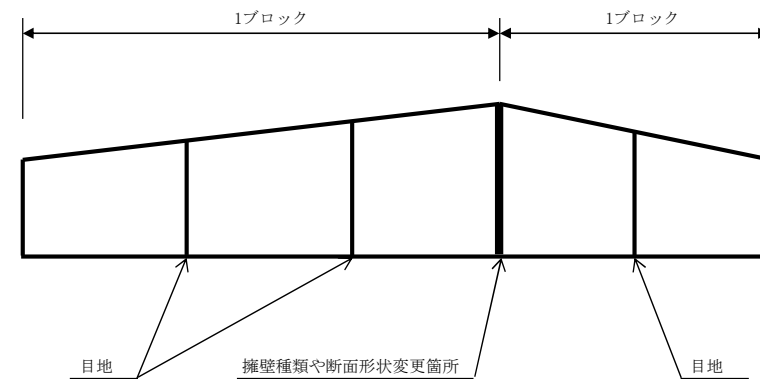
1・2 (略)

3. 共通項

(1)、(2) (略)

(3) 場所打擁壁工

1. (略)
2. 擁壁の平均高さを算出する際、1ブロックの判定は下図を標準とする。



3. (略)

(4)、(5) (略)

4. コンクリート工 (略)